

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいあるみすまい		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目8-33 (電 話) 011-596-3010		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月1日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】 (20年 11月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 1月 11日
ユニット数	2 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	18 人
常勤	11人, 非常勤 9人, 常勤換算 14.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建て 1 ~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費18000円 暖房費 (11~3月)10000円
敷 金	有 (40000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (40000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (11月 17日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 81 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック札幌病院、さくら歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌の南の郊外の、自然に恵まれた閑静な環境でありながら、国道沿いの交通の至便な場所に位置する。開設3年未満の、真新しい建物が清々しい居住空間を作っている。利用者を尊敬する介護の理念を大切にして、その実現に熱心に取り組んでいる。町内会活動に積極的に参加し、ホームの行事にも招くなど、地域との交流に力を注いでいる。利用者を尊敬し、意向や希望を注意深く察知しながら、穏やかな生活が送れるよう、管理者を中心に職員一同、深い信頼関係のもとに利用者の生活を支えている。利用者職員が、ともに生活するものとして、家事の上でも精神的にも、お互いに支え合いながら心の通い合う関係を築いており、明るい、屈託のない笑いが流れ、会話が交わされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	前回評価の課題に基づき、自己評価を職員みんなが参加して協同で作成し、災害対策の訓練を定期的に、夜間想定も盛り込んで実施するようにするなどの改善が行われたが、家族の意見の吸収・反映や同業者との交流はなお取り組みの課題を残している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
	評価項目を分割して各職員が分担し、全職員が参加して原案を作り、管理者がまとめて作り上げた。それぞれが基本に立ち返り、課題を見直す手がかかりとして活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
	運営推進会議は4ヶ月に1回、定例で開催され、家族、利用者、町内会長、地域包括センター職員が参加し、ホームの活動状況、自己・外部評価、町内会の活動状況、地域包括センターの活動状況などについて話し合われている。それぞれの立場から活発な発言が出され、有益な情報が得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
	家族からの率直な意見を得ることが重要であると考え、意見箱を設置し、面会の際には極力聞き出すように努力しているが、これまでのところ特別な意見は得られていない。意見箱には鍵をつけて、法人の代表者しか見られないようにし、投稿者の機密を守るように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
	町内会に加入して、夏祭りなどの地域の行事に利用者とともに参加し、草刈りや新年会には職員が参加して交流を深めている。また、事業所が開催する納涼祭では、地域の組織から機材を借り、地域の人々を招待している。その他、幼稚園や学校の行事にも参加するなど、地域との交流には積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念は、後に職員自身が参加して検討し直し、新しいものに作り変えた。地域とのつながりについては、理念には載せていないが、介護指針に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と介護指針は玄関ホール、事務室、タイムカード前に掲示している。理念を実行できたかどうかを職員が毎日出退勤の時に自己チェックするための記入表がタイムカードの横に設置しており、自覚の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、夏祭りなどの地域の行事に利用者とともに参加し、草刈りや新年会には職員が参加して交流を深めている。また、事業所が開催する納涼祭では、地域の組織から機材を借り、地域の人々を招待している。その他、幼稚園や学校の行事にも参加するなど、地域との交流には積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を分割して各職員が分担し、全職員が参加して原案を作り、管理者がまとめて作り上げた。それぞれが基本に立ち返り、課題を見直す手がかりとして活用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1回、定例で開催され、家族、利用者、町内会長、地域包括センター職員が参加し、ホームの活動状況、自己・外部評価、町内会の活動状況、地域包括センターの活動状況などについて話し合われている。それぞれの立場から活発な発言が出され、有益な情報が得られている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉サービスの利用や行政事務の手続きで区役所を訪問し、区の主宰する研修会に参加して接触を保っている。	○	業務上の必要や規定の会に参加するに止まらず、より広い分野で行政サービスを活用するために、積極的な連携に努めることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月通信を発行し、家族が来訪した際には詳細に利用者の生活の様子を伝えている。健康状態に変化があったときや大きな買い物のときなどにはその都度連絡をしている。金銭管理は毎月報告している。職員の異動については、新入の場合のみ、通信で知らせている。	○	職員の異動については新入のみならず、退職の際も知らせることを検討するよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの率直な意見を得ることが重要であると考え、意見箱を設置し、面会のときには極力聞き出すように努力しているが、これまでのところ特別な意見は得られていない。意見箱には鍵をつけて、法人の代表者しか見られないようにし、投稿者の機密を守るように配慮している。	○	正面切って言いにくい家族の声を聞きだすための工夫、ノウハウの開発、努力を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員異動の弊害を理解して最小限に抑えてはいるが、事業所間のある程度の異動は避けられない。異動後も時折来訪して寂しさを和らげるなどの工夫をしている。離職の際の利用者への対応は、離職する本人に任せている。	○	離職する際の職員の対応については本人任せとせず、利用者それぞれを考慮した適切なあり方について、事業所としての方針を持つよう期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内他事業所と合同で年に1,2回、勉強会を開催している。外部研修は、会社が指示して派遣する場合もあるが、多くは機会の情報を提供して、職員の自主参加に任せている。	○	内部研修の機会を増やすとともに、外部研修を含めた、職員の育成計画を策定したうえで、業務の一環として研修を受けさせる機会を増やすことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他事業所とは管理者が毎月交流している。区が主催する研修会に参加し、グループホーム協議会の会議に年3回参加しているが、同業者との相互交流というほどのところまではいっていない。	○	法人外の同業者と個別に交流し合い、ネットワークを作って、勉強会や相互訪問ができるような関係を構築することを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人が来訪してホームの雰囲気を知ってから入居するよう、勧めているが、実現しない場合もある。家族の情報に基づいて、従来とできるだけ近い生活となるよう、工夫している。また、当初は家族の面会を多くしてもらうよう、依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の準備から後始末まで、できる人は職員が積極的に促して一緒に仕事をしている。利用者の昔話や人生経験から職員が学ぶこともあり、慰め励まされることも多い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの事前の情報、日常のかかわりのなかから得られる情報、昔の生活ぶりなどの情報をもとに、利用者の気持や希望を推測し、それに添えるように努めている。これらの情報は職員同士が共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護の中で利用者の思いや家族の意向を汲み取り、個人記録に記入し、毎月のミーティングで全職員の意見や医師の意見を踏まえて担当職員が原案を作成し、介護支援専門員が介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族の面会時に説明したり、郵送して確認印を得ている。	○	現在は、利用者本人に介護計画の説明は行われていないので、利用者の状況に合わせて可能な限り本人に説明していく事を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に3ヶ月毎に見直しを行っている。入退院や転倒、ベットから落ちるなどの身体状況に変化が生じた時は、全職員で話し合い現状に即して介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎を柔軟に対応している。日常生活の安定してる利用者には、本人や家族と相談して系列のシニアホームへの移動を勧め、転居して現在シニアホームで生活している前利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、可能な限り変更しないで通院出来るように支援を行い、受診時に普段の健康状態を話したり、体調変化がある時は、電話で指示を貰うようにしている。受診は、可能な限り常勤している看護師が同行して健康状態を把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応にかかる指針」を作成し、入居時に本人、家族に説明して同意を得ている。体調が変化した場合は、本人、家族と話し合いを持ち、食事が出来なくなったり、病院での医療行為が必要になるまでは事業所での生活が継続できるように対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などの書類は、事務所で目隠しをして保管している。トイレ誘導の時は耳元で静かに声かけをしたり、排便時も、利用者とアイコンタクトを取る等の配慮をしている。職員の言葉がけなどで気になる事がある時は、ホーム長や管理者が注意や指導をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴など一日の決められた流れはあるが、朝起きられない時は時間をずらして食事をして貰ったり、食卓で食べたくない時は居室で食事をして貰うなどの配慮をしている。一人ひとりのペースで生活出来るように、職員で連携を取り配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、片付けなど利用者の状態に合わせて職員と一緒にやっている。毎週月曜日の夕食は利用者の希望の献立にしたり、2ヶ月に1回ユニット毎に、うどんやラーメン、寿司、バイキングなどの外食に出かけて食事が楽しめるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回を目標に利用者毎に入浴日を決めているが、心身の状態により柔軟に対応している。入浴拒否者には、時間をあけて声かけするなどそれぞれの利用者に合わせて柔軟に対応している。異性介助は、本人の意向に添って対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事や畑仕事、読書や絵手紙、カラオケなど、それぞれの利用者が得意な事や楽しみ事で気晴らしが出来るように配慮している。毎月のカレンダー制作で、初めは作りたがらなかった利用者も、繰り返す事により楽しみながら参加するようになって来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外の天気の良い日は、近隣や公園まで散歩をしたり、玄関前のベンチで日光浴を楽しんでいる。ドライブで中山峠に芋を食べに行ったり、定山溪の足湯に入りに行くなど、楽しんで戸外に出られるように支援している。職員と一緒に買い物にも出かけている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口に鈴をつけて見守る事により、夜間のみ施錠している。利用者が外出した時は職員と一緒に出かけたり、後ろから付いて行って危険がないように見守り、利用者が満足出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署の協力のもと、年1回参加可能な利用者と一緒に避難訓練を行っている。今年度は、前回の外部評価を踏まえ、夜間を想定しての訓練を行った。来年度からは、4月と10月の年2回避難訓練を行う予定である。	○	運営推進会議で、災害訓練を議題に取り上げて地域住民の協力を働きかけたり、コンビニやガソリンスタンドに声かけをして協力体制を整えるなど、その取り組みに期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、1日1500カロリーで繊維質を多く取るように工夫して事業所の栄養士が作成している。食事や水分の摂取量を記録し、不足している利用者には、他の食品や好きな食べ物、ココアや昆布茶など好きな飲み物を提供して充分摂取出来るように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、利用者と職員が一緒に制作したクリスマスツリーや今月のカレンダー、手作りの日めくりなどがあり、季節感が感じられるようになっている。窓辺にはソファや畳のスペースがあり、利用者は好みの場所でゆったり過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洋服ダンスとナースコールが設置されている。それぞれの利用者は、家族の写真や縫いぐるみ、使い慣れた筆筒や鏡などを持ち込み、個性のある居室で居心地良く落ち着いて過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。